

第三期武蔵野市産業振興計画 骨子(案)及び基本方針設定の考え方

基本理念:”まちの魅力”を高め、”豊かな暮らし”を支える産業の振興

※基本理念は暫定的に現行計画と同じものを設定

骨子(案)

基本方針設定の考え方

【基本方針】

方針1 武蔵野市の魅力や価値を 高める産業振興

目指す姿・イメージ:
誰かの「好き」があふれる 魅力あふれるまち

<視点>

- ・市民・来街者に訴求する魅力づくり
- ・情報発信力の強化

現計画に対応する目標

目標1:武蔵野市の魅力や価値を
高める産業振興

【各施策の柱】

①まちの魅力発信

②クリエイティブ産業を活かしたまちづくり

③都市観光の推進

④活力とにぎわいのあるまちづくり

⑤都市農業の振興と農地の保全

【審議会・専門部会意見】

- ・観光に付加価値を付ける
- ・アニメ、まんが、ゲームなどのクリエイターを活かす
→歩き回れる仕組みに活用
- ・音楽コンサートのイベント探しづら
い、分かりにくい
- ・武蔵野市は歴史あるまち
- ・アナログ=体験=(農家見学会)への
回帰
- ・文化を発信する場所がない
- ・三駅の個性を活かす
まちの滞在時間を長く

- ・インバウンド需要のみではなく、
多文化共生としての対応が必要
- ・海外展開や越境 EC 支援については、
民間等の動きも注視していく
必要がある。

【アンケート】

- ・来街目的「買い物」(6割)、飲食は
1割
- ・歩いて回れるまちづくり求
- ・イベントできるオープンスペースの
整備
- ・車や自転車多くまち歩きづらい
- ・近隣住民の武蔵野市のイメージ1位は
自然や公園が楽しめるまち(57.6%)

【ヒアリング】

- ・幅広い年齢層が楽しむことができ、
なんでもそろそろまち
- ・休憩場所が少ない、
- ・イベントスペースが少ない公園では
ない憩いの場が必要
- ・武蔵野市は緑に恵まれている
- ・武蔵野みやげ「むさしのプレミアム」
認知低い。拡充を
- ・農家見学ツアー知らなかった、周知
方法の仕方工夫してほしい

方針2 学生や地域と連携して創る 産業振興

目指す姿・イメージ:
地域で育み 多様なひとが働く
まち

<視点>

- ・市民の豊かな暮らしや地域を支える
産業振興
- ・多様な主体が活躍できる環境づくり
(新たなプラットフォームの形成等)

現計画に対応する目標

目標2:地域生活を支え合う産業振興

目標5:市内働く多様な人材による
産業振興

⑥商店会(街)の活性化支援

⑦地域資源を活用する事業者への支援(変更)

⑧学生との連携

⑨多様な人材の活用

- ・ライフステージに応じて楽しめる
まち(コンパクトならでは)
- ・学生との連携(ボランティアやま
ちなかキャンパス)
教育、体験、共有、共感できるまち
(コミュニティ形成)

- ・定年後の働き先
- ・セカンドキャリア、子育てと仕事
の両立、介護、副業
- ・人材確保のヒントは、子育て世代
等の活用

- ・「商店会は。地域の安心、子育て、
高齢者の相談相手、文化の創造、伝
承の場」として地域のコミュニティ
を担う場」

- ・来街目的「買い物」(6割)、飲食は
1割
- ・市民調査で市民が商店会に望むの
は、1位:買い物しやすい・歩いて
楽しい、2位:生活必需品の購入

- ・市民アンケートの結果、1/4が
市内就業に関心あり

- ・3割弱が人材不足と回答

- ・若年層・高齢層のつながり、ネッ
トワークづくり必要
- ・学生に SNS 協力してほしい
- ・学生多いまち

- ・未だ个性的な店も多い
- ・個店減った
- ・大手チェーンは地域の組織を知ら
ないので、お祭り等のイベントが
成り立たないコミュニティ増え
ている
- ・地域密着型の大型商業店と連携し
たい

- ・商店会の世代交代が必要
- ・商店会の活動・連携に温度差

- ・従業員の高齢化
- ・パート、アルバイト不足
- ・採用コスト高
- ・マネジメントを任せる人材が見つ
からない

方針3 都市の活力を担う 持続可能な産業振興

目指す姿・イメージ：
多様な業種がつながる 持続可能なまち

<視点>

- ・事業者の事業活動・経営に対する支援
- ・社会情勢の変化に対応した事業活動の促進

現計画に対応する目標
目標3：都市の活力を担う産業振興
目標4：情報化や国際化に対応した産業振興

⑩経営基盤の安定化と事業革新の推進

⑪事業者マッチングの推進(新)

⑫事業承継支援

⑬DX・デジタル化の推進

⑭環境配慮への普及・啓発(新)

供給が必要に合わせる時代

- ・住民と産業の距離を埋める
- ・市民はキャッシュレス化を望む(事業者には効果を見せることが大事)
- ・小売は厳しい(デジタルの台頭)

- ・事業承継(業務効率化、デジタル化対応、多様な働き方への対応、人材育成が課題)

- ・「サービスの魅力向上・販路開拓」はマーケティング、異業種交流が効果的

- ・地産地消ニーズが高い
- ・環境への配慮が必要

- ・異業種交流との交流連携、市内事業者との取引の関心が高い

- ・4割弱が事業承継の課題あり。後継者の育成が最も課題

- ・原材料価格、エネルギー高騰
- ・6割半がコロナ禍より売上高減
- ・人材不足、販路拡大できない
- ・商品・サービスの魅了向上が経営課題の上位

- ・行政が取り組むべきは、事業所・店舗の回収、設備更新・新規導入や資金調達(融資)等

- ・人材確保のために取り組みたいのは、安定経営、社員育成・スキルアップ対応等

- ・デジタル化への取組における課題は、人員不足(技術のある人材もいない)

- ・関心あるが取り組んでいないが2割。取り組んでいるがうまくいっていないが2割(人材不足が理由)

- ・市民調査で市民が商店会に望むのは、3位キャッシュレス化、4位魅力ある個店の増加

- ・事業者間のつながり 同業種・異業種ともに希望
- ・異業種交流良い(コラボ)

- ・承継者不在、募集方法分からない
- ・就職インターン的に承継候補が2、3年働く仕組みがあれば良い
- ・承継のメリットを知らなかった
- ・セミナーに参加するのは抵抗がある、アドバイスほしい

- ・デジタル化、何をしたらいいか分からないし人材もいない
- ・デジタル化しようにも費用ない、補助金の申請も手間。補助金申請補助してほしい
- ・SNSの普及で情報発信の仕方が変わった
- ・デジタル×体験で定着化

- ・環境配慮をスタンダードに

方針4 起業・創業等による 個性を活かした産業振興

目指す姿・イメージ：
だれもがチャレンジしやすい
個性を活かせるまち

<視点>

- ・新たな担い手づくり、だれもがチャレンジできる環境づくり

現計画に対応する目標
目標3：都市の活力を担う産業振興

⑮起業・創業支援

⑯学びなおし・人材活躍の推進(新)

- ・賃料が高い
- 仮想空間でのマーケット形成
- ・シニア世代増→空き家増、
- ・創業(第二創業、副(複)業)
- セカンドキャリアによる創業と事業承継のマッチング
- 女性、若者に特化した創業支援
- 起業家教育
- ・出店支援金効果あり

- ・チャレンジできるまち

- ・学びなおし
- ・コミセンの活用
- ・安心・安全
- ・子育て支援を重視してはどうか(社会的マイノリティ)
- 子連れ歓迎ステッカー等の対応
- ・外国人市民への対応

- ・市民アンケート：創業への関心があるのは20.8%、「以前関心があったが今はない」が19.1%

- ・起業を検討する際に利用したい取り組みは、法務・税務・労務に関する知識習得、企業資金調達、創業相談窓口が上位。

- ・空き店舗を試行的に貸して実績が出たらテナントとして入居できる仕組みがあると良い

- ・住まいと店舗が一緒になれば若い人が思いついたことを実現できる環境づくりになる

- ・住まいと店舗が離れているため、ネットワークが希薄化、さらにまちの空気も変わった

方針5 事業者・消費者のための 安心・安全な産業振興

目指す姿・イメージ：
あらゆる人が安心して心地よく
住み続けられるまち

<視点>

- ・事業者や消費者を取り巻く環境・社会課題への対応

⑰安心・安全のためのまちづくり

⑱経済危機に対する備え(新)

⑲消費者教育の推進(新)

- ・武蔵野市第六期長期計画の『平和で安全なまちであり続け、また、世代を超えて愛着と誇りを感じることができるまちであり続けられるよう、「誰もが安心して暮らし続けられる 魅力と活力があふれるまち」を10年後の目指すべき姿とし』の部分を読んで、安心安全の下に産業振興があるのだと理解した。